

カナダで育つ日本語背景の幼児の親が抱える課題解決に向けたネットワーキング

秋山 幸(早稲田大学大学院日本語教育研究科) 石井恵理子(東京女子大学現代教養学部)

研究の背景と目的

- 背景 言語文化圏を越えた親の子育てや子どもの支援は、学校や関係機関等の連携が図られてきている。しかし、支援にたどり着けない親子、支援の取り組みがない地域には課題が残されている。
- 目的 カナダの日本語背景をもつ子どもの親に焦点を当て、親と周囲の人々による、子どもの言語を含む課題解決に向けたつながりの実践から、地域ネットワーキングの特徴を明らかにする

調査地・調査方法

- 調査地 カナダ ブリティッシュ・コロンビア州
- 調査方法 アンケート調査実施と合わせて、インタビュー調査協力者を募る…10名にインタビュー調査
対象：日本語学校 子どもの保護者 実施期間：2016年9～10月

インタビュー調査の分析結果と考察

表1. 調査協力者の属性と家庭内言語

協力者	調査協力者(子どもの母)				夫(子どもの父)		家庭内言語		
	面接時代	滞在年数(年・月)	渡加経緯	滞在資格	母語	母語	出身	母子間	父子間
A	40代	13	配偶者事情	移民	日	タガログ、英	フィリピン	日	英
B	40代	1:8	配偶者事情	移民	日	広東	香港*	日	日>英
C	30代	2:3	配偶者事情	就業ビザ(家族)	日	日	日本	日	日
D	30代	0:8	配偶者事情	移民申請中	日	マンダリン(ハイナン)	マレーシア*	日	日、英
E	40代	14	W.H.・仕事	移民	日	英	カナダ	日>>英	英
F	50代	25	仕事	市民権	日	英	カナダ	日	英
G	40代	17	結婚	移民	日	英	カナダ	日	英
H	30代	11	W.H.・仕事	移民	日	広東	香港*	日	広東>英
I	40代	18	家族で移民	移民	日	日	日本*	日	日
J	40代	10	留学・仕事	移民	日	英(ギリシャ、仏)	カナダ**	日	英

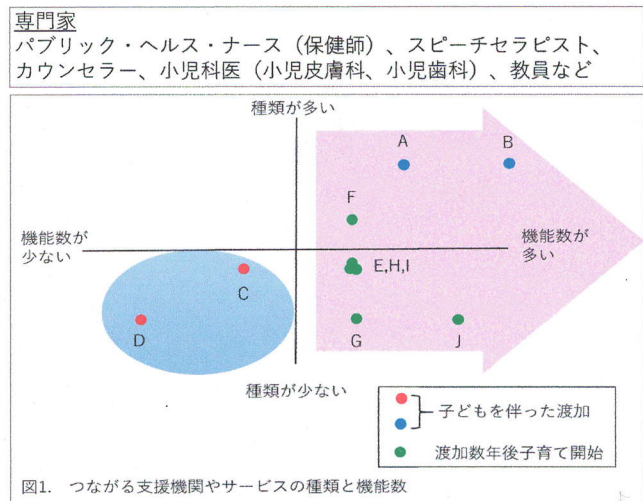
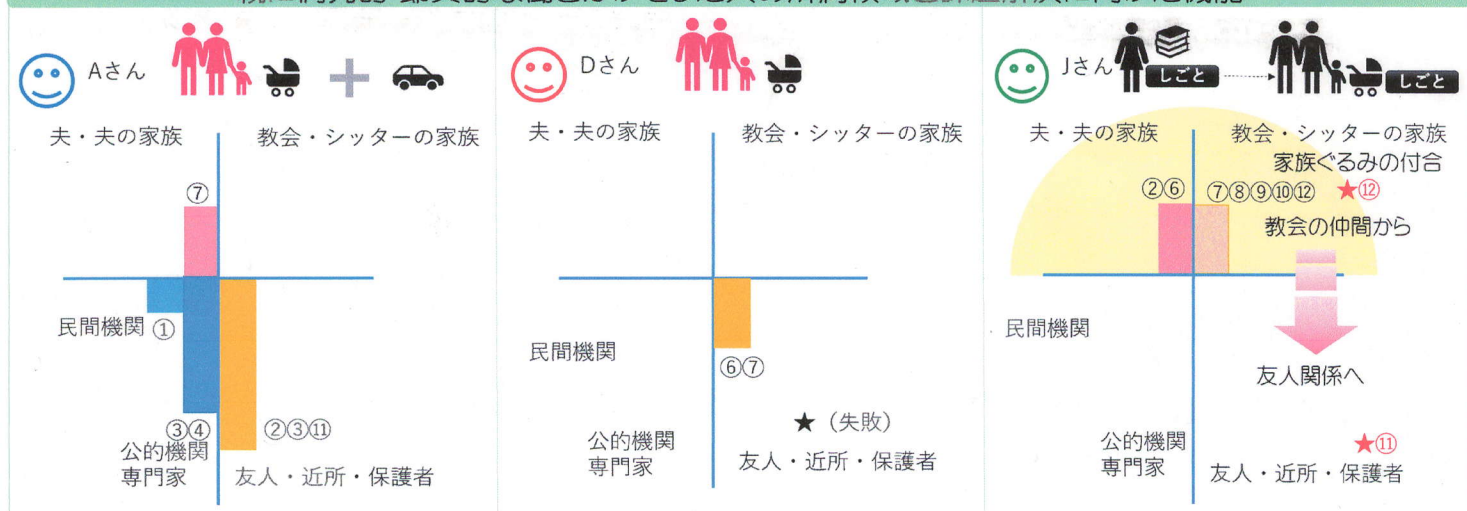
表2. 協力者がアクセスする支援機関の種類および支援機関・支援者の機能数

協力者	渡加時 子ども年齢	公的専門機関				民間機関		私的支援	支援機関・支援者	
		言語 発達	発達 医療等	子ども/親子向け プログラム	移民向け サービス	子ども日本語 サークル等	日本語学校 プリスクール	夫・大家族・教会 近所・友人等	種類 (数)	機能 (数)
A	0(10カ月)	◎	◎	◎	◎	—	○	有	5	7
B	3, 1	◎	—	◎	◎	◎	○	有	5	9
C	3, 1	—	—	●	—	◎	●	有	3	4
D	7, 6, 1	—	—	—	—	◎	◎	有	2	2
E	—	◎	—	—	—	●	○	有	3	6
F	—	◎	◎	●	—	—	●	有	4	6
G	—	—	◎	—	—	—	○	有	2	6
H	—	—	◎	—	—	◎	○	有	3	6
I	—	◎	—	●	—	—	●	有	3	6
J	—	—	◎	—	—	—	●	有	2	8

W.H.:ワーキングホリデー制度の利用 []年少時の家庭の言語 *親とともに移民 **親が移民 >左辺が多い >>左辺が圧倒的に多い

◎:越境行為者がいた ●:自分で見つけた ○:経緯ははっきりしていないが行った —:行っていない

親に偶発的・即興的な働きかけをした人の所属領域と課題解決に向けた機能



- 機能
- ①言語発達(英一部日)
 - ②心身発達・医療(英)
 - ③子ども、親子向け(英)
 - ④移民向け(英)
 - ⑤日本語サークル
 - ⑥日本語学校・プリ(英)
 - ⑦子育て情報(日)
 - ⑧産前・産後ケア(日英他)
 - ⑨家族ぐるみ付き合い(日英)
 - ⑩移民等手続き相談(日)
 - ⑪学校文化情報(日英)
 - ⑫情報交換・雑談(日英)
- ※(言語名): 使用言語 ★: 自発的な働きかけ
- 渡加(单身)
渡加(子ども)
子育て
車無 車有
留学 しごと 就業

まとめ

- ・移住直後は多方面の即興的つながりが、中長期的には個別の課題に特化しない緩やかなつながりが重要
- ・親が課題を共有する仲間や支援にアクセスするために、制度の枠外の人々を含むつながりが不可欠
- ・親子のサポートにおいて、人の越境行為という実践に着目すると、偶発性と即興性を備えた動的性質を持つ地域全体のものとして捉えることができる

子どもの日本語教育研究会第2回大会 2017年3月11日 (於: 早稲田大学)